本愛

発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL（052）461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL（0743）62-0378
編集責任　広報部

教祖年祭へ、心一つに

1月12日「諭達」本部巡教

本部秋季大祭において、真柱様から「諭達第四号」が発布された。これを受けて、来年1月12日には大教会で本部巡教が行われる。年祭活動の指針となる「諭達」に込められた思いを、しっかりと学ぶ機会としたい。

教祖140年祭へ向かう年祭活動の指針となる「諭達第四号」が発布された。

この「諭達」冒頭に「全教の心を一つにしたい」とあるように、教祖年祭へ向けては、すべてのようぼくが心を揃えて歩みをすすめる必要がある。

「諭達」の発布に際して真柱様は、年祭をつとめる意味は変わらないし変わってはならない一方で、「年祭の意味や、どういう気持ちでつとめるか分からない人もいる」として、「全教が心を揃えるためにも、知らない人は年祭の意味を知り、そしてをやの思いに添わせてもらおうと積極的に歩む、そういう気持ちになってもらう、そのための材料として、この『諭達』が利用してもらえればいい」とお述べくださった。まずは一人ひとりが「諭達」をしっかりと拝読させていただきたい。

現在、教会本部から各直属教会等へ本部巡教が行われている。本愛大教会への巡教は来年1月12日午後1時30分から行われる。講師は本部准員・諸井道隆先生。

また本愛の直属教会には2月、部属教会には3～5月に全教会一斉巡教が行われる。この巡教を通じて、年祭活動の意義とそこに込められた、をやの思いを学ばせていただきたい。

年間活動目標
創立110周年に向かって
今日を陽気に。
おつとめ　おたすけ　ひのきしん

YouTube
本愛大教会
公式チャンネル
で限定公開中

11月神殿講話

中村誠司氏
保法分教会ようぼく

※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。
本愛誌の読者限定で公開している動画ですので、チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

閉門時間が変わります

本愛大教会の正門、ならびに第1～3の各駐車場の閉門時間が変更となりました。下記の時間以外は境内地内の出入り口は施錠されますので、ご参拝の際にはご注意ください。

開門時間　午前5時（変更なし）
閉門時間　午後7時30分

またこれに伴い、閉門時間以降の電話応対は近く自動音声となります。あしからずご了承ください。

12月のこよみ

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
女子青年例会	17日	午前10時
こはる会例会	17日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
ほんあいOKEIKO	18日	午前10時
婦人会例会	20日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時
青年会例会	28日	午前10時
大祓式	31日	夕づとめ後

現代に生かす「用木の道」

文・安藤吉人

三下り目は慶応3年正月頃に教祖がおつくりくださったお歌です。この下りのテーマを一言で言えば、「お道とはなにか」ということだと言えるでしょう。このお歌がつくられた当時は立教から約30年程で、貧に落ち切られた中で徐々に教えが広がり始めたころでした。

お歌の意味は例によって深谷太清先生の『十二下りのてをどりを身近に』をご参考いただければと思いますが、何より疑問に浮かぶのは「なぜ三下り、四下り目は扇を使うのか」ということでしょう。この点について、少し考えてみたいと思います。

扇の意味

現在、私たちはてをどりをつとめる際、赤い日の丸がついた扇を両手に持って勤めます。しかし、明治40年頃までは「白地に銀色の三日月を描いた扇」と「白地に金または銀の太陽を描いた扇」を一対として、左右にそれぞれを持って踊っていました。『みちのとも』昭和55年3月号にこのようにあります。

「月日親神を象徴する三日月の扇と太陽の扇、二本の扇をお歌の理に即して教えのままに動かす時は、お歌がそのまま月日親神の直々のお言葉と響いて、一段の重みと権威を加えるのである（中略）ここに教祖が、てをどりの中に扇の手をお教えくださった最大の理由があるように拝察する」

その後なぜ現行の扇と定められたのか詳しい理由は定かではありませんが、左右が異なる扇だと、十二下りで扇を一本だけ使う場合にどちらを使うのかという点が問題になることもあったようです。

三下り目では、扇を五ツまで持ちます。五ツまでは「よう〳〵ここまでついてきた」「めずらしたすけをするほどに」など、人間の目線ではなく、親神様の目線で語られた言葉が続きます。しかし、扇を置いた後は「かみにもたれてゆきまする」など、目線が人間側へと移ります。

教祖は扇の理由をお示しくださってはいませんが、この親神様と人間との一連の対話において、扇は親神様の言葉を強調しているのではないかと考えられるのです。

教えの真髄

一方で、安藤正吉初代会長様は四ツのお歌を取り上げてこのようにおっしゃっています。

「じつのたすけはこれからや」というのは、今までのたすけてもらいたいという精神が次第に成人して、おさづけの理を戴いてたすけるという精神になるのである。

親神様との対話を通して、人の心が「たすかりたい」から「たすけたい」へと変わっていく。

その道筋こそがこの教えの真髄であり、「お道とはなにか」という問いの答えが、この三下り目にはあると言えるのです。

年末年始の行事

【おぢば】

別席　12月28日から元旦まで休み。2日から通常通り。

元旦祭　1月1日午前5時から本部神殿にて執行。

お節会　1月5日（木）～7日（土）の3日間、いずれも午前10時から午後1時まで。

【大教会】

餅つきひのきしん　28日　午前9時

年末清掃・迎春準備　29日　午前10時

大祓式　31日　夕づとめ後

立教186年

元旦祭　1日　午前5時

教会長年頭連絡会　12日　午後1時30分

教理随想

言わん言えんの理を探る

【第96回】

二つ一つが天の理を味わい ひながたの道を実践しよう

諭達第四号が発布されて一か月がたちました。日々拝読する中に味わいが深くなっていると思います。その中の一節に、「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し…」とあるように、来年から始まる三年千日は、教えを実践する努力が何より大切です。

教えの一つに、「二つ一つが天の理」という教理があります。これは、私たちが住む世界は、二つのものが一つになって成り立っているという意味で、人体にも自然現象にも当てはまる天然自然の法則です。これを細かく分析してみると、「二つ一つ」という言葉には、①統合性、②相補性、③相反性という三つの意味があるように思います。

統合性とは、二つが一つに重なることで、体でいえば目の働きがそれに当たります。人間の目は数センチの間隔をあけて二つ付いており、右と左の画像では若干の誤差があります。その二つが一つに統合されることで、物が立体的に見えて距離感も生まれる。つまり物を見るという行為に統合性が活きているといえます。

相補性とは互いに補い合うことです。体でいえば両足の働きで、人間は片足だけでも短時間なら立っていられますが、長時間にはとても耐えられません。そこで右足と左足が補い合うことで、ある程度の長時間の起立や歩行を可能にしています。このことから、主従関係ではなく対等な立場でたすけ合うことの大切さを悟ることができます。

相反性とは、互いに反する役割を受け持って、その結果、全体として目的が達せられることです。体では両手がそれを示しています。

たとえば重い荷物を片手で持とうとする時、荷物を持たない方の手はただブラブラしているのではなく、体が倒れないように均衡を保つ働きをします。つまり片方は荷物を持ち、片方は持たないけれども、全体として荷物を運ぶという目的を達成している。これが相反性の意味するところです。

こうしたことを総合して教えられた「二つ一つが天の理」という教理を、心使いに反映させていけば、体の内外に理の働きが現れて、体も家庭も調和のご守護をいただけるのです。

■感謝と思いやりの心

では、心使いに反映させるとはどういう意味でしょうか。まず統合性を作り出すためには、心を柔軟にすることが大切です。堅い頭や心から統合性は生まれません。いつでも相手に合わせられる柔軟さと協調性を心に持つことが、人間関係の治まりをご守護いただく重要な要因となります。

また相補性を心使いに置き換えれば、「思いやりの心」です。人の気持ちを察し、どうすれば相手が喜んでくれるかを第一に考える心から相補性が生まれ、円満な関係が築かれます。

相反性とは、相手と対立したり反目する姿勢ではなく、家庭や社会を円満にするという目的をしっかり定めた上で、自分はどの役割を受け持つべきかを考え、一人一人が自覚を持って役目を果たしていく努力です。

諭達の中で真柱様は、教祖のひながたを辿ることの重要性を強調されました。中でも心を柔軟にして養う感謝の心と、人に対する思いやりの心、さらに、自分の周囲で人だすけを実行する努力。これらはひながたを実践する上で、大切な角目であることをお教えくださいました。

教祖のひながたを「敬して遠ざける」のではなく、積極的に辿って、教祖の思いに近づき溶け込んでいきましょう。そこに円満な家庭と社会が築かれる道が拓けていくのであります。

事情おはこび
（令和４年10月26日付）

本名分教会
◎臨時祭典願
〔創立100周年記念祭〕
令和４年11月６日

本宏津分教会（本宏部属）
◎任命願
前会長・久野僚三氏の辞職に伴い、久野祐伺郎氏が会長の理のお許しを戴いた。

久野祐伺郎氏

（久野氏の略歴）
昭和48年１月12日生まれ
平成４年10月10日おさづけの理拝戴
平成14年12月２日教人登録
〔奉告祭〕令和４年11月20日

教人登録者
（令和４年10月25日付）
本喜愛　岡野　行喜
以上１名

10月のおさづけの理拝戴者
本御重　和光　那津
本愛湊　本田　大賀
本愛濃　宮田　剛
〃　宮田ひとみ
以上４名

10月の初席者
本　心（本心徳）永田　道也
〃　（〃）武内　雄飛
本愛正　坂本　彪馬
以上３名

本信義分教会二代会長
久保岩夫之霊の三十年祭
本信義分教会では10月16日午前11時、二代会長・久保岩夫之霊の三十年祭が、世話人・石井富男役員を祭主として同分教会で行われた。

おめでた
青木道裕さん(37)（本枇杷島分教会長・青木健裕氏長男）は、鈴木さきえさん(33)との縁談相整い、去る10月30日、世話人・安藤正二郎役員主礼のもと、大教会教祖殿において、夫婦固めの盃をかわし華燭の典を挙げた。

創立100周年記念祭
本名分教会（出口邦郎会長）では、11月６日午前10時半より、大教会長夫妻ほか多数の来賓を迎え、多数の参拝者が集う中、創立100周年記念祭が盛大に行われた。

会長就任奉告祭
本宏津分教会（本宏部属・久野祐伺郎会長）では、11月20日午前10時より、大教会長、上級・本宏分教会長ら多数の来賓を迎え、四代会長就任奉告祭が賑やかに執り行われた。

大教会日誌
令和４年10月25日～令和４年11月24日

10月
26日　本部秋季大祭
27日　第96回天理教青年会総会
31日　常任役員会議◇役員会議

11月
1日　入社祭
祭　主・大教会長　扈者・桑子保、加藤成幸
指図方・大倉八郎　賛者・塚原光男、野田正樹
◇おたすけ講話―吉田正信
◇教会長連絡会
2日　よふき会例会
おつとめ・十二下りてをどり・連絡会
9日　こはる会例会
12日　常任役員会議
13日　月次祭
祭　主・大教会長　扈者・松原友治、杉村善男
指図方・安藤正二郎　賛者・出口邦郎、長良英男
◇祭典講話―保法分教会ようぼく・中村誠司氏
◇大教会長挨拶
14日　布教実修所
16日　むつみ会例会
17日　こども食堂ＭＯＧＵ（参加者43人）
20日　婦人会例会
21、22日　青年会１日ひのきしん隊